

「インクルーシブ」って何?

最近「インクルーシブ」という言葉を耳にしたことはありませんか？
インクルーシブ教育システム (inclusive education system) は、障害のある人、
障害のない人が「同じ場で」「共に」学ぶ仕組みです。その上で、教育的
なニーズのある子供に対しては、一人一人の教育的ニーズに応えること
のできる指導を提供するための、「多様な学びの場」を用意する必要がある
、とされています。

最近の障害者や特別支援教育に関係した主な動き

- | | |
|-----------------|---|
| 平成19年 4月 | 「特別支援教育の推進」が通知される。
→ 小・中学校等も含めたすべての学校で
特別支援教育が実施されるようになる。
→ 盲・聾・養護学校は、特別支援学校として、
地域のセンター的役割を担う。 |
| 平成19年 9月 | 日本が「障害者の権利に関する条約」に署名する。 |
| 平成23年 8月 | 「障害者基本法」の一部が改正され、公布される。 |
| 平成24年 7月 | 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育シ
ステム構築のための特別支援教育の推進」が示される。 |
| 平成25年 6月 | 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」
が制定される。 |
| 平成25年 9月 | 「学校教育法施行令」の一部が改正される。
→ 就学先決定の仕組みが改正される。 |
| 平成26年 1月 | 日本が「障害者の権利に関する条約」を批准する。 |

最近になって、我が国では特殊教育から特別支援教育への転換を図る
という教育改革があり、そして、共生社会の実現に向けた法整備の流れ
の下でインクルーシブ教育システムという考え方が示されるようになりました。
平成24年7月に中央教育審議会から示された報告では、就学に
関することや合理的配慮、多様な学びの場の整備や学校間連携、そして
教職員の専門性向上等について提言がなされています。

文部科学省は、今年度(平成25年度)に「インクルーシブ教育システム構
築事業」として、様々な事業を実施しています(本校の取組は次頁に)。

「インクルーシブ教育システム構築事業」 における本校の取組

本校は今年度、聴覚障害教育の専門性向上のために、様々な教職員研修等を行ってきました。そのいくつかを御報告いたします。

その① 「タブレット端末の活用に関する研修と実践」

タブレット端末 8 台を導入し、子供たちのニーズに合わせた活用方法について、研修や研究を行いました。

その② 「教職員研修会の開催」

様々な分野の専門家をお招きして、教職員対象の研修を行いました。

講師	研修テーマと内容
森川美恵子先生 手話通訳士 (手話通訳問題)	「聴覚障害者の社会的自立のために必要な力について」 成人聴覚障害者の相談場面を通じた支援における実際の例を挙げていただき、そこからろう学校に必要なこと、希望することについて御提言をいただきました。
苅田 知則 先生 愛媛大学准教授 (特別支援教育・ 発達心理)	「聴覚障害の特性を踏まえた ICT 機器の活用について」 インクルーシブ教育の考え方の中で、タブレット端末を用いる教育的な意義について解説していただき、身近なツールとしての活用方法を御紹介いただきました。
佐藤紀代子先生 言語聴覚士 (聴覚障害臨床)	「聴覚障害児の理解と支援について」 聴覚障害のある子供には、聞こえる子供の模倣の力や言葉の使用、情報量の違い等を踏まえた、意識した関わりが必要なことを、具体的な例を挙げながら教えていただきました。
森 慎之助 先生 愛媛大学教授 (技術・情報教育)	「eラーニングにおける ICT 機器の活用例について」 コンピュータネットワークを利用して教育を行う eラーニングの効用や留意点について御説明をいただき、自己評価力を高める利用方法について教えていただきました。
市橋 詮司 先生 元愛知県立 岡崎聾学校長 (聴覚障害教育)	「インクルーシブ教育下の聴覚障害教育の在り方について」 ろう学校の専門性は、聞こえない子供の集団を確保することであり、地域で学ぶこと、ピア集団の中で学ぶこと、どちらも保障されるべきとするインクルーシブの理念に則ったろう学校のあるべき姿について、御提言をいただきました。

その③ 「ネットワーク会議における 外部専門家の招聘」

外部機関との連携構築のために、6年前から行っているネットワーク会議に、スーパーバイザーとして外部専門家をお招きしました。

第1回「聴覚障害児への乳幼児期からの療育の充実や適切な教育的支援の在り方」

… 愛媛大学・高橋信雄先生に指導助言をいただきました。

第2回「難聴特別支援学級における指導や支援の充実と学級間の連携構築の在り方」

… 愛媛大学・立入哉先生に指導助言をいただきました。

【重要】電池の共同購入の取り止めについて

自立・連携課では、平成19年度より補聴器、人工内耳電池の購入に際し、安価で販売している業者からの共同購入のお手伝いをして参りました。これは、補聴器、人工内耳を管理維持するための経済的な負担を軽減することを目的とした支援になります。補聴器や人工内耳の電池については、インターネットや格安販売店などで購入する方がいる一方、御家庭の都合で格安販売店に足を運べない場合や、インターネットの接続環境を持たない場合等もあることを踏まえ、続けて参りました。

しかし、最近では購入のとりまとめ数が減少したことや、格安販売店が増えてきたこと等から、今年度で、自立・連携課によるこの支援を、一旦終わらせていただきたいと思います。

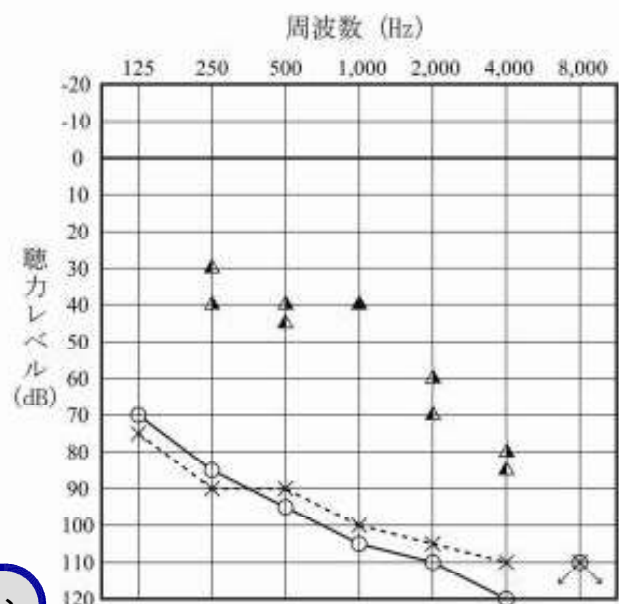
今後も、格安販売店の情報提供や、個別による相談には対応させていただきますので、御理解、御了承くださいますようお願いいたします。

【聴覚管理表をお渡しします】

昨年度より、学校での聴力測定の結果や補聴器の修理履歴等を記載した「聴覚管理表」をお渡ししています。子供さんの聴力の状態の把握や、補聴器の申請時期についての確認に御利用ください。
※ 幼・小・中卒業式、又は終業式の日までにお渡しします。

オーディオグラムの見方

- (実線) : 右耳 裸耳
- × (点線) : 左耳 裸耳
- ※ 「↓」はスケールアウト
…これ以上の測定不可
- ▲ (黒) : 右耳の補聴器装用時 (人工内耳)
- ▲ (白) : 左耳の補聴器装用時 (人工内耳)
- ※ 人工内耳装用時の結果を CI (コクレア・インプラントの略) と記入する場合もあります。



右のオーディオグラムの平均聴力レベルは、
右 104 dB
左 99 dB となります。

「DVDの御紹介」

先日、本校職員のK先生から、教材研究を兼ねて、DVDをお借りしました。

この場を借りて、皆様にも、御紹介させていただきます。

いずれも今村彩子さんの作品です。

<http://www.studioaya.com/>

「音のない3.11 ～被災地にろう者もいた～」
3,000円(税・送料込) 23分

前作「手話で語る3.11～宮城被災ろう者の体験談～」は、自立活動の授業で、中・高等部の生徒と一緒に視聴しました。

本作品は、高校・大学や企業、団体、地域の自治会等での研修で活用できるように編集され、また、日本語・英語・韓国語・ポルトガル語の字幕もあります。

「五目ごはん ～私たちの生きる道～」2,700円(税・送料込) 82分

「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」(2006)に出演している5人の卒業生の現在を追ったドキュメンタリーです。

『共に生きる社会はそれぞれの具がおいしい味を出し合っておいしくなる五目ごはんに似ていると思い、このタイトルにした』そうです。

その1

NHK放送

技術研究所より

『NHK手話CG評価ホームページ』の御案内

「手話CG」は、NHK放送技術研究所が開発を進めているもので、実際の手話の動きを取り込んでコンピューターグラフィックス(CG)化したものです。

現在およそ7,000語を作成しています。

「手話CG」は、手話キャスターが放送局に居ない時間の急なお知らせに応用することを目標に研究しています。是非一度アクセスしてみてください。

<http://www.nhk.or.jp/signlanguage/>

本校教職員と保護者の方すべてにお配りします。御活用ください。

リーフレットをお配りします

その2

愛媛県視聴覚福祉センターより

『震災から身を守るために』

「聴覚障害者」と「サポートする方」両方に向けて、視聴覚福祉センターが作成したパンフレットです。日頃の対策や災害時の対応等、分かりやすく示されています。

今後、自立活動の授業でも扱う予定です。御家庭でも、子供さんと話をするきっかけにしてみたいかがでしょうか。

編集後記

みみちゃん57号をお届けいたします。今年度は、労働、福祉、教育、それぞれで共生社会に向けた施策が、次々打ち出された年であったように思います。そうした中で、ろう学校は子供たちにとってどのような形で在り続けるべきかを考えさせられた年でもありました。まだまだ変化は続くようです。これからも変化に対応しつつ、本校がこれまで取り組んできたことを丁寧に行っていきたいと考えています。次年度もよろしく願いいたします。